

46:1 イスラエルは、彼に属するすべてのものといっしょに出発し、ベエル・シェバに来たとき、父イサクの神にいけにえをささげた。46:2 神は、夜の幻の中でイスラエルに、「ヤコブよ、ヤコブよ」と言って呼ばれた。彼は答えた。「はい。ここにいます。」46:3 すると仰せられた。「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトに下ることを恐れるな。わたしはそこで、あなたを大いなる国民にするから。46:4 わたし自身があなたといっしょにエジプトに下り、また、わたし自身が必ずあなたを再び導き上る。ヨセフの手はあなたの目を閉じてくれるであろう。」46:5 それから、ヤコブはベエル・シェバを立った。イスラエルの子らは、ヤコブを乗せるためにパロが送った車に、父ヤコブと自分たちの子や妻を乗せ、46:6 また彼らは家畜とカナンの地で得た財産も持って行った。こうしてヤコブはそのすべての子孫といっしょにエジプトに来た。46:7 すなわち、彼は、自分の息子たちと孫たち、自分の娘たちと孫娘たち、こうしてすべての子孫を連れてエジプトに来た。46:8 エジプトに来たイスラエルの子——ヤコブとその子——の名は次のとおりである。ヤコブの長子ルベン。46:9 ルベンの子はエノク、パル、ヘツロン、カルミ。46:10 シメオンの子はエムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ツォハル、カナンの女の産んだ子サウル。46:11 レビの子はゲルション、ケハテ、メラリ。46:12 ユダの子はエル、オナン、シェラ、ペレツ、ゼラフ。しかしエルとオナンはカナンの地で死んだ。ペレツの子はヘツロンとハムルであった。46:13 イッサカルの子はトラ、プワ、ヨブ、シムロン。46:14 ゼブルンの子はセレデ、エロン、ヤフレエル。46:15 これらはレアがパダン・アラムでヤコブに産んだ子で、それにその娘ディナがあり、彼の息子、娘たちの総勢は三十三人。46:16 ガドの子はツイフヨン、ハギ、シュニ、エツボン、エリ、アロディ、アルエリ。46:17 アシエルの子はイムナ、イシュワ、イシュビ、ベリアとその妹セラフ。ベリアの子はヘベル、マルキエル。46:18 これらは、ラバンが娘レアに与えたジルパの子である。彼女がヤコブに産んだのは十六人であった。46:19 ヤコブの妻ラケルの子はヨセフとベニヤミンである。46:20 ヨセフにはエジプトの地で子どもが生まれた。それはオンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテが彼に産んだマナセとエフライムである。46:21 ベニヤミンの子はベラ、ベケル、アシュベル、ゲラ、ナアマン、エヒ、ロシュ、ムピム、フピム、アルデ。46:22 これらはラケルがヤコブに産んだ子で、みなで十四人である。46:23 ダンの子はフシム。46:24 ナフタリの子はヤフツェエル、グニ、エツェル、シレム。46:25 これらはラバンが娘ラケルに与えたビルハの子である。彼女がヤコブに産んだのはみなで七人であった。46:26 ヤコブに属する者、すなわち、ヤコブから生まれた子でエジプトへ行った者は、ヤコブの息子たちの妻は別として、みなで六十六人であった。46:27 エジプトでヨセフに生まれた子らはふたりで、エジプトに行ったヤコブの家族はみなで七十人であった。46:28 さて、ヤコブはユダを先にヨセフのところへ遣わしてゴシェンへの道を示させた。それから彼らはゴシェンの地に行った。46:29 ヨセフは車を整え、父イスラエルを迎えるためにゴシェンへ上った。そして父に会うなり、父の首に抱きつき、その首にすがって泣き続けた。46:30 イスラエルはヨセフに言った。「もう今、私は死んでもよい。この目であなたが生きているのを見たからには。」46:31 ヨセフは兄弟たちや父の家族の者たちに言った。「私はパロのところに知らせに行き、申しませう。『カナンの地にいた私の兄弟と父の家族の者たちが私のところに来ました。46:32 この人たちは羊を飼う者です。家畜を飼っていた者です。彼らは、自分たちの羊と牛と彼らのものすべてを連れて来ました。』46:33 パロがあなたがたを呼び寄せて、『あなたがたの職業は何か』と聞くようなときには、46:34 あなたがたは答えなさい。『あなたのしもべどもは若い時から今まで、私たちも、また私たちの先祖も家畜を飼う者でございます』と。そうすれば、あなたがたはゴシェンの地に住むことができるでしょう。羊を飼う者はすべて、エジプト人に忌みきらわれているからです。」

はじめに

先週は、ヨセフの父ヤコブが元気づけられたところで 45 章の学びが終わりました。ヤコブは、息子が死んだと思っていました。そして、20 年以上も会えずにいて、130 歳の老人になっていました。

20年余りの時間をかけて、神はヨセフの人生に働かれましたが、同時に、ヨセフの気難しい兄たちにも働いておられました。

それは、創世記 12 : 1-3 と 15 : 1-6 で神がアブラハムになさった約束を守るための備えでした。

創世記 12 : 1-3

12:1 【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。 12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。 12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

創世記 15 : 1-6

15:1 これらの出来事の後、【主】のことばが幻のうちにアブラムに臨み、こう仰せられた。「アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きい。」 15:2 そこでアブラムは申し上げた。「神、主よ。私に何をお与えになるのですか。私には子がありません。私の家の相続人は、あのダマスコのエリエゼルになるのでしょうか。」 15:3 さらに、アブラムは、「ご覧ください。あなたが子孫を私に下さないので、私の家の奴隷が、私の跡取りになるでしょう」と申し上げた。 15:4 すると、【主】のことばが彼に臨み、こう仰せられた。「その者があなたの跡を継いではならない。ただ、あなた自身から生まれ出て来る者が、あなたの跡を継がなければならない。」 15:5 そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」 さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」 15:6 彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

神は、アブラハムの子孫が空の星のように数多くなると約束なさいました。

空の星がどれほど多いかを知らなければ、その意味がわからないかもしれません。

どなたか、天の川銀河の星の数をご存知の方はいますか。

その答えは、約 1000 億です。神が約束なさいしたのは、途方もない人数です。

比較対象として挙げると、米国の人口が約 3 億 2300 万人、日本は約 1 億 2000 万人です。

アブラハムの孫であるヤコブの子孫でエジプトに向かったのはたった 66 人でした。（創世記

46 : 26）

神はよほどのことをなさないとおブラハムへの約束を守れません。

秋ごろに出エジプト記を学ぶ予定ですが、そのときには、ひどい試練の中で、神がユダヤ民族を大きく発展させられたことがわかります。

それでは、創世記 46 章のみことばを学ぶことにしましょう。

1. ヤコブに対する神の約束 (1-4 節)

46 章 1 節で、ヤコブはまず家族を全員集めてすべての所有物をもって、ベエル・シェバに出発しました。

ベエル・シェバに向かった目的は、神にいけにえをささげるためでした。

当時、ヤコブはそこから 36km ほど離れたヘブロンに住んでいました。

ベエル・シェバは、ヤコブの祖父アブラハムにとって特別な場所でした。

そこは、アブラハムがアビメレクと契約を結び、木を植えて主の御名によって祈った場所でした。

（創世記 21:23,24,31-34）

また、アブラハムの信仰が試されて、その信仰の強さが証明された場所でもありました。

彼は、わが子をいけにえとしてささげることを良しとしました。しかし、それは神による信仰のテストでした。（創世記 22 章）

ベエル・シェバは、ヤコブにとっても特別な場所でした。そこで育ったからです。（創世記 28 : 10）

ヤコブがエジプトに旅立つ前に神を礼拝するのにこの特別な場所を選んだのは、ごく自然なことです。

ここで礼拝をささげているときに、神はヤコブに直接語りかけられました。

ここで少し、このことについて考えたいと思います。

神は、ヤコブが礼拝をささげているときに語られました。神は、私たちが礼拝をささげるときにも語りかけることができになります。

重要なことは、神の御声に耳を傾けることです。そして、神の御声を聴くために、私たちの感情や知性に入りこむ邪魔を取り除くことです。

礼拝は双方通行です。私たちは神を礼拝しますが、同時に、神は私たちにあらゆるかたちで語られます。

もちろん、毎日聖書を読むのは大切ですが、礼拝でも神の御声を聴けるように心を整えている必要があります。

では、本文に戻りましょう。

神は、ヤコブの心をご存知でした。ヤコブは老齢で知らない土地に旅することに不安を感じていました。

それで、神はヤコブにこう語られました。

46:3 すると仰せられた。「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトに下ることを恐れるな。わたしはそこで、あなたを大いなる国民にするから。 **46:4** わたし自身があなたといっしょにエジプトに下り、また、わたし自身が必ずあなたを再び導き上る。ヨセフの手はあなたの目を閉じてくれるであろう。」

ヤコブはそれが神からの幻であるとすぐに気づきました。

神がおっしゃったことは、ずっと昔に神が祖父アブラハムになさった約束とつながっていました。神は、エジプトに行くことを恐れないようにと励まされましたが、その理由を 4 つ挙げておられます。

第一に、この少人数の人々を「大いなる国民」にすると約束するので恐れるなどおっしゃいました。

これは、アブラハムになさったのと同じ約束です。（創世記 12 : 2）

神は、創世記 17 : 19 でふたたび語られ、18 : 18 では客人の姿をした御使いをとおして語られました。

ここで気づくべきことは、大いなる国民の約束がヤコブの思いにぴんと来なかったはずだということです。

なぜ神はヤコブの家族をカナンの地で祝福することがおできにならないのでしょうか。

ひとつは飢きんが原因ですが、同時に、神はご自身のご計画にしたがって、みこころをなそうとしておられたからです。

第二に、「わたし自身があなたといっしょにエジプトに下」るので、恐れなくてよいと語られました。

神は創世記 28 : 10-15 でヤコブに語っておられました。

28:10 ヤコブはベエル・シェバを立て、ハランへと旅立った。 **28:11** ある所に着いたとき、ちょうど日が沈んだので、そこで一夜を明かすことにした。彼はその所の石の一つを取り、それを枕にして、その場所で横になった。 **28:12** そのうちに、彼は夢を見た。見よ。一つのはしごが地に向けて立てられている。その頂は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしている。 **28:13** そして、見よ。【主】が彼のかたわらに立っておられた。そして仰せられた。「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、【主】である。わたしはあなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫とに与える。 **28:14** あなたの子孫は地のちりのようになり、あなたは、西、東、北、南へと広がり、地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝

福される。28:15 見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」

神はそれまでヤコブを守り、必要を備えてこられました。ですから、今になって約束を違えられることがあるでしょうか。

神の祝福は、故郷と呼ばれる場所に制限されません。神はどこであっても、みこころのままに私たちが祝福することがおできになります。

OICにいる私たちの約半数は、母国から離れています。それは容易いことではありませんが、神は母国でも日本でも同じように私たちが祝福することがおできになります。

神のみこころのうちを歩んでいるなら、世界のどこであっても、それが私たちにとって何よりの祝福です。

第三に、ヤコブはカナンに再び導くという神の約束に励まされました。この約束は、ヤコブ自身が生きてカナンに帰るというよりは、「大いなる国民」に関する約束です。しかし、ヤコブの遺骨は、死後その地に帰りました。

ヤコブは、祖父アブラハムに神がおっしゃったこととの関連性に気づかなかったかもしれませんが、これは重要なポイントなので、創世記 15 : 13-15 にある内容との関連性に注目しておきましょう。

創世記 15 : 13-15

15:13 そこで、アブラムに仰せがあった。「あなたはこの事をよく知っていなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。

15:14 しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。 15:15 あなた自身は、平安のうちに、あなたの先祖のもとに行き、長寿を全うして葬られよう。

第四に、ヤコブは自らの死に関する事で励まされました。ヨセフに看取られて、平安のうちに天国に帰っていくのです。

神から与えられたこの4つの約束は、当時のヤコブにとって大きな励ましとなったことでしょう。

適用

聖書から与えられた約束について考え、それをどのように日常生活にあてはめるか、考える必要があります。

誰かが約束を守ってくれれば、とても安心できます。

反対に、約束を破られると、深く傷つきます。

私たちが礼拝する神は、約束を守ってくださると私たちは確信しています。

これは、私たちにとって大きな励みであり、喜びです。

現在の私たちにも当てはまる約束を知り、過度な適用をしないようにすることが大切です。

いくつか覚えておくべきことを挙げておきましょう。

まず、約束と原則を混同しないことです。

聖書の約束は、100%成就しますが、原則は一般的な真理を述べたものです。

箴言は約束の書であるとよく間違われますが、これは指針となる原則です。

ここで、箴言 22 : 6 を読みましょう。

箴言 22:6 若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。

この箴言は、一般的には真実であり、これに従うのは賢明です。しかし、神の教えにそって育てたすべての子がイエスを信じるようになると保証するものではありません。

次に、聖書の中の約束に伴う背景や文脈を理解することです。
聖書の中で約束を受け取った人々の状況をはっきりと理解しましょう。
聖書の特定の登場人物に対する約束は、私たちにはまったく適用できない場合もあります。

そして、約束が与えられたときに条件がついているなら、それを見過ごさないことです。
「～なら」や「もし～」というフレーズが約束に含まれているなら、その約束が実現するには私
たちもそれに従わなければなりません。
このような約束を自分のものとして受け取るなら、条件を満たす必要があります。

歴代誌第二 7:14 わたしの名を呼び求めているわたしの民がみずからへりくだり、祈りをささげ、
わたしの顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、わたしが親しく天から聞いて、彼らの罪
を赦し、彼らの地をいやそう。

この約束で、神は神の民に大いにへりくだり、祈り、ただ祈るだけではなく神の御顔を求めるこ
とを求めておられます。熱心に祈り、時には断食して、悪い道から立ち返らなければならないの
です。

旧約時代の神の民は、神に何かをしていただく前にまず条件を満たさなければなりませんでした。
そうして初めて、天におられる神に祈りを聞いていただき、罪を赦して、最終的には地を癒して
いただけるのです。

私自身が神に何度も約束を果たしてくださいと祈ったみことばがあります。
ピリピ 4 : 19 です。

ピリピ 4:19 また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの
必要をすべて満たしてくださいませ。

この個所は、パウロの働きを経済的に支援している教会に宛てられたものです。
つまりパウロは、神が教会の人々のすべての必要を満たしてくださいませと、約束しているのです。
それは、彼らが犠牲を払って忠実に働きを支えていたからです。
ですから、私たちも個人の必要も教会の必要も神が満たしてくださいませと信頼するなら、毎週什一
献金を忠実に捧げていなければなりません。
それに加え、神はさらにささげるように私たちを召されることがあります。
私たち夫婦は 30 年以上前に、この大切な教えを学びました。
神は確かに、私たち夫婦の必要を満たすという約束を守ってきてくださいました。神がそうして
くださるのは、私たちが神の働きに忠実にささげることに関わると常に理解してきました。

また、不純な動機で約束を使ったり、自分勝手に約束を選び好みしたりしないように注意するこ
とです。
その一例をここで説明しましょう。

出エジプト 14:13-14

14:13 それでモーセは民に言った。「恐れてはいけない。しっかり立って、きょう、あなたがたの
ために行われる【主】の救いを見なさい。あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久に
見ることはできない。 14:14 【主】があなたがたのために戦われる。あなたがたは黙っていなけれ
ばならない。」

このとき、神の民は戦わずに黙っているように命じられました。神ご自身が働かれるのです。
けれども、3 章後の出エジプト 17 : 8-16 では、実際に勝利をもたらしたのは、モーセの祈りでし
たが、イスラエルの民は戦わなければなりませんでした。

出エジプト 17:8-16

17:8 さて、アマレクが来て、レフィディムでイスラエルと戦った。 17:9 モーセはヨシュアに言った。「私たちのために幾人かを選び、出て行ってアマレクと戦いなさい。あす私は神の杖を手にとって、丘の頂に立ちます。」 17:10 ヨシュアはモーセが言ったとおりにして、アマレクと戦った。モーセとアロンとフルは丘の頂に登った。 17:11 モーセが手を上げているときは、イスラエルが優勢になり、手を降ろしているときは、アマレクが優勢になった。 17:12 しかし、モーセの手が重くなった。彼らは石を取り、それをモーセの足もとに置いたので、モーセはその上に腰掛けた。アロンとフルは、ひとりはこちら側、ひとりはあちら側から、モーセの手をささえた。それで彼の手は日が沈むまで、しっかりそのままであった。 17:13 ヨシュアは、アマレクとその民を剣の刃で打ち破った。 17:14 【主】はモーセに仰せられた。「このことを記録として、書き物に書きしるし、ヨシュアに読んで聞かせよ。わたしはアマレクの記憶を天の下から完全に消し去ってしまう。」 17:15 モーセは祭壇を築き、それをアドナイ・ニシと呼び、 17:16 「それは『主の御座の上の手』のことで、【主】は代々にわたってアマレクと戦われる」と言った。

私たちは日常生活の中で、戦いを選ぶ判断力が必要です。私たちが戦うべきものと、黙って神を信頼すべき戦いを見分けなければなりません。そのようなときに、聖霊が私たちを導いてくださいます。

最後に、神が約束を守ってくださる時や場所について、私たちの考えを押し付けないことです。デボーションの時間を過ごしたり、聖書を読んだりしているときに、神が私たちに語られることがあります。すると私たちは、それがすぐに成就することを期待してしまいます。けれども、その約束が成就するのは将来のことで、今は私たちに励ましておられるだけかもしれません。

結論として、聖書の約束を自分に対する約束ととらえる前に、聖書を調べて文脈や背景をしっかりと踏まえ、自らの動機も探る必要があります。

2. ヤコブと家族全員がエジプトに移り住む (5-27 節)

ヤコブは、神の約束を信じて、家族と一緒にエジプトに移り住むことにしました。このとき、家畜など全財産を持っていきました。

モーセは 8-25 節で、ヤコブとエジプトに向かった人々の名前を書き連ねています。ただし、ヨセフとヨセフの妻、そしてふたりの息子の名もそこに含めています。

26 節には、カナンからエジプトに向かった人々は 66 人だったとあります。

そして 27 節でヨセフの家族を含めて、全員で 70 人としました。

なぜ著者は、エジプトに行った人全員の名を列記したのでしょうか。なぜそこにヨセフとヨセフの家族も含めたのでしょうか。

それにはいくつかの答えがあるでしょう。

しかし、一番有力な答えは、次のとおりです。神はアブラハムとその子孫に大いなる国民となると約束なさいました。そして、彼らをとおして地上のすべての民が祝福されると約束なさいました。これは、アブラハムの子孫にのみ約束されたことだからです。

ですから、エジプトという外国の地に移り住むにあたり、彼らの身元がはっきりと示されている必要があったのです。

その身元とは、神に選ばれた民の一員であること、新約聖書へと聖書の物語が進んでいくにあたって非常に重要な民になるということです。

それは、約束されたユダヤ人の救い主が、この民から起こるからです。

そういうわけで、この民の人々は身元がはっきりされなければならなかったのです。

マタイの福音書でマタイがダビデ王からイエスの地上の父であるヨセフまで系図を記したのも同じ理由です。(マタイ 1 : 1-17)

ルカも、アブラハムを含めてアダムまでさかのぼるイエス・キリストの系図を記しています。

(ルカ 3 : 23-26)

ユダヤ民族の名前は、神にとって大切でした。神の民にとって身元がはっきりすることは大切でした。

現代では、「私たちの名まえ」が大切です。

現代の私たちにとって何よりも大切なことは、「私たちの名まえ」が「小羊のいのちの書」に記されていることです。

神は、主イエス・キリストを信じる人々全員の名を正確に記録しておられます。

黙示録 21 : 22-27 を読みましょう。

21:22 私は、この都の中に神殿を見なかった。それは、万物の支配者である、神であられる主と、小羊とが都の神殿だからである。 21:23 都には、これを照らす太陽も月もない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかりだからである。 21:24 諸国の民が、都の光によって歩み、地の王たちはその栄光を携えて都に来る。 21:25 都の門は一日中決して閉じることがない。そこには夜がないからである。 21:26 こうして、人々は諸国の民の栄光と誉れとを、そこに携えて来る。 21:27 しかし、すべて汚れた者や、憎むべきことと偽りとを行う者は、決して都に入れぬ。小羊のいのちの書に名が書いてある者だけが、入ることができる。

いつの日か天国に入って神とともに過ごす人全員の名を神が記録しておられることは明らかです。ここにいる私たちにとっての課題は、小羊のいのちの書に確実に自分の名まえを記されているようにすることです。

そうする唯一の方法は、自分の罪を神に謝罪し、私たちの罪のために死んでくださった主イエス・キリストを信じることです。

このお方は、私たちの身代わりとなってささげられたのです。

コリント第二 5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義となるためです。

3. ヤコブと家族がエジプトに到着し、ヨセフが父と再会する。(28-34 節)

28 節には、ヤコブと家族がエジプトに到着し、ユダがヨセフのところへ遣わされて、彼らが新たに住む場所を示してもらったとあります。

そして、無事にゴシェンに到着しました。

29-30 節には、ヨセフと父の再会の様子が記されています。

ヤコブは、生きて息子に再会できたので、もう死んでもよいと言っています。

しかし、ヤコブに対する神のご計画はそうではありませんでした。

ヤコブはその地でその後 17 年間生きました。

ヤコブが息子とふたりの孫との時間を与えてくださったのは、神の深い恵みです。

ヨセフは父とゆっくり過ごす時間はあまりなかったでしょう。ヤコブと家族がゴシェンの地で生活していけるように、エジプトの王から許可を得なければなりません。

ヨセフは、ゴシェンで生活するためにはエジプトの王の前に出て話さなければならないと、父と兄たちに言いました。

そして、エジプトの王パロに、彼らは皆羊飼いだと言うようにと伝えました。

「羊を飼う者はすべて、エジプト人に忌みきらわれている」という言葉で 46 章は終わります。

この部分は、来週のメッセージでヤコブと息子たちが王の前に出て話す場面が続くので、手短かにまとめましょう。

ひとつ浮かぶ疑問は、なぜ羊飼いがエジプト人に嫌われるのか、なぜヨセフはヤコブとその家族に羊飼いだと言うようにと言いつけたのかということです。

なぜエジプト人が羊飼いを嫌うのかははっきりはわかりませんが、羊をいけにえとしてささげることに関する宗教的な違いが関係しているかもしれません。

これは、エジプト人がヘブル人と食事をしなかったことにも関連します。（創世記 43 : 32）わかっていることは、神の選びの民が彼らだけの間で人数を増やしていくことが神のみこころだったということです。

神は、ご自身の民がエジプト人から区別されることを望まれ、結婚によって交わることを望まれませんでした。

神の選びの民が救われ、きよめられて神に仕えることが、常に神のみこころです。

適用

新約聖書でも、神の民が世の民とは区別されることを神が命じておられることは、その教えから明らかです。

コリント第二 6 : 11-7 : 1

6:11 コリントの人たち。私たちはあなたがたに包み隠すことなく話しました。私たちの心は広く開かれています。 6:12 あなたがたは、私たちの中で制約を受けているのではなく、自分の心で自分を窮屈にしているのです。 6:13 私は自分の子どもに対するように言います。それに報いて、あなたがたのほうでも心を広くしてください。 6:14 不信者と、つり合わぬくびきをいっしょにつけてはいけません。正義と不法とに、どんなつながりがあるでしょう。光と暗やみとに、どんな交わりがあるでしょう。 6:15 キリストとベリアルとに、何の調和があるでしょう。信者と不信者とに、何のかかわりがあるでしょう。 6:16 神の宮と偶像とに、何の一致があるでしょう。私たちは生ける神の宮なのです。神はこう言われました。「わたしは彼らの間に住み、また歩む。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。 6:17 それゆえ、彼らの中から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。汚れたものに触れないようにせよ。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れ、 6:18 わたしはあなたがたの父となり、あなたがたはわたしの息子、娘となる、と全能の主が言われる。」 7:1 愛する者たち。私たちはこのような約束を与えられているのですから、いっさいの霊肉の汚れから自分をきよめ、神を恐れかしこんで聖きを全うしようではありませんか。

ここでパウロは、ノンクリスチャンや世俗的な習慣と一線を画すようにと教える根拠として旧約聖書を引用しています。

私たちは、この世で生きることと、ノンクリスチャンとの関係において一定の距離感を保つことの両立を意識しなくてはなりません。

ノンクリスチャンと親しくなるにつれて、信仰を妥協する可能性が高まります。イエスへの愛から離れてしまう人もいます。

神の教えには理由があります。それは、私たちが霊的に守り、養うためです。

神の助けを得て、聖書が教える距離感の原則を正しく、愛をもって実行できますように。